第 56 回建築士会全国大会しまね大会紹介

7）津和野のまちなみ　石見部　１津和野町

津和野のまちなみ

合併して範囲は広くなっていますが、旧津和野町は津和野藩亀井氏の城下町でした。山間の小さな盆地は、かっての小京都ブームの中でもてはやされました。それだけ近世の面影を残しているし、まちなみ自体にも昔の面影が全体に漂っています。JR 津和野駅から商家の続くまちなみには酒蔵や種屋、呉服屋、菓子屋、薬屋などが並び、立止まって見入ってしまうような懐かしい佇まいがあります。そんな町屋の町並みを抜けると町はかっての武家屋敷などが並ぶ空間に早変わり。最初に近代の津和野カトリック教会があり、藩校だった近世の建物が目に留まります。建物前の水路には丸々と太った錦鯉。家老屋敷（多胡家老）には立派な門が残り、津和野町役場はかっての郡役所をそのままに使った、近代和風建築です。少し先に歩いていけば安野光雅美術館、森鴎外記念館（宮本忠長設計）や鴎外の茅葺の成果もあります。そしてぜひ見て頂きたいのが、堀家です。堀家は畑ヶ迫という地域にありますがここ和津和の町内であって、近世には天領でした。銅山があったのです。堀家はこの銅山の差配をしていました。

藩校遺構前

森鴎外の生家

カトリック教会

鷺舞

主屋は 300 年以上の立派なものです。それ以上に良いのは客伝楽山荘です。贅を尽くしたというのはこのことかと思うような意匠、材料の使い方です。一つの部屋はすべて屋久杉で作るとか、モチーフを空に見立てるとか、かなり凝り性の数寄屋を堪能できること請け合いです。

堀家楽山荘と庭園